

第 70 回日本酪農研究会 開催のご報告

日本酪農青年研究連盟(酪青研：山本 隆委員長)主催の第 70 回日本酪農研究会が、11 月 13～15 日の 3 日間、ホテルアソシア静岡にて、全国から約 280 名の参加者を集めて盛会に開催されました。来賓として、農林水産省や静岡県庁をはじめとする関係行政・団体等、社内外からのご臨席を賜りました。

主催者挨拶した山本委員長は「ここ静岡の地は霊峰富士山をいただき、古くから関東と関西を結ぶ東海道の要衝として様々な人々、多くの情報がいきかい、また江戸幕府をひらいた徳川家康ゆかりの土地でもある。この静岡の地から激動の戦国時代を制し日本の歴史を切り拓いた徳川家康にあやかり、この転換期に負けず、一歩一歩、自らの酪農経営の道を切り拓こう。」と挨拶しました。

当社グループを代表して挨拶された西尾代表取締役社長は「今年は日本列島が多くの自然災害に見舞われた年でした。7 月には九州、関西地区にて大雨の被害、9 月には北海道胆振東部地震があり、酪農経営も甚大な被害を受けました。被害を受けられた皆様には、この場をお借りしてお見舞い申し上げます。日欧 E P A をはじめ様々な自由貿易協定が動き出そうとしている現在、酪農もいよいよ本格的な国際競争に身を投じることとなります。また今年度から改正畜安法が施行され、新たな生乳取引の第一歩が踏み出されたといえます。私どもの取り巻く環境がどのように変化しようとも、我々酪農乳業界の関係者が一丸となり、知恵を出し合っていかなければならないことに変わりはありません。私ども雪印メグミルクグループは、乳(ミルク)を通じて持続可能な社会の実現にむけて貢献して参ります。創業者の黒澤西蔵翁はかつて循環農法を提唱し「酪農救国」と語りました。まさに今、取り組んでいる持続可能な社会の実現にむけて貢献することと精神を同じくするといつても過言ではありません。私どもと酪農家の皆さんと共に手を携え、国内酪農の持続的発展と、安全・安心で、且つ、乳(ミルク)にこだわった付加価値のある商品を消費者の皆様にお届けする変わらぬ使命をこれからも全力で果たして参ります。」と挨拶しました。

研究会では、全国から選抜された酪農家 7 名による酪農経営発表と 5 名の意見メッセージ発表が行われ、経営発表の中から「経営カイゼンから始まる放牧改革」と題して発表した北海道協議会幌延地方連盟の高原弘雄さんが最優秀賞(黒澤賞)・農林水産大臣賞に輝きました。今回の発表事例はいずれも今日の我が国において持続的な酪農経営として求められる課題へのヒントとなる取り組みでした。酪農経営をめぐる課題として、後継者や従業員の確保、飼料や後継牛の確保、ふん尿処理と環境問題、酪農家の個別化と地域社会との関係の希薄化、その他に制度・政策・資金に関する課題が挙げられます。酪農経営には多くの課題がありますが、その対策やヒントも酪農経営の現場にあることを改めて認識できる発表でした。

発表会後に行われた講演会では、「大地とともに生きる田方農業…生徒一人ひとりが主人公」と題して静岡県立田方農業高等学校動物科学科生産動物コースの生徒の皆さんより、続いて「静岡県畜産技術研究所における自給飼料生産研究に関する取り組み」と題し静岡県畜産技術研究所上席研究員の高野浩先生よりご講演いただき、若い方々から刺激を受けると共に静岡県特有の飼料生産について学び、大変有意義な大会となりました。